

5. 普及・広報活動

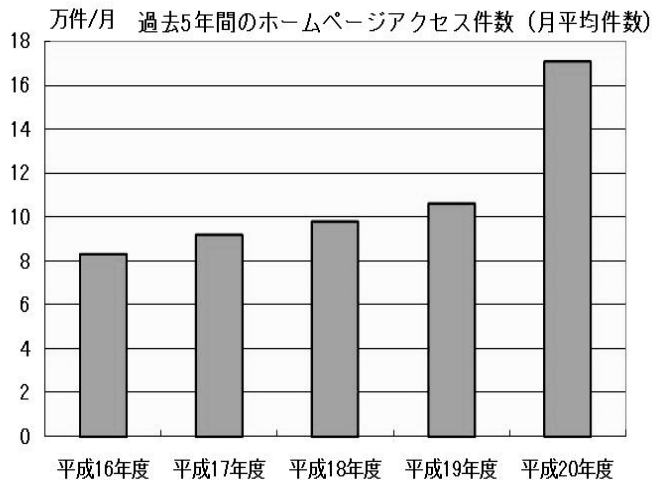
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5. 1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成 7 年 12 月から運用している。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からもリンクが張られており、平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月までのアクセス件数は約 202 万件であった。



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

5. 2. 施設公開等

5. 2. 1. 一般公開、施設見学

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間*の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設公開のほか、ビデオ放映やパネル展示による業務紹介を行っている。

平成 20 年度は 4 月 16 日（水）に一般公開を実施し、185 名の来場者があった。

*科学技術週間とは

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4 月 18 日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、高層気象台、気象測器検定試験センターと共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。さらに、例年天気図講習会として天気図の描き方に関する講習会を行っており、小中学生から好評を得ている。

また、このお天気フェアは、つくば市主催の研究機関スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の対象にもなっている。

平成20年度は、8月6日（水）に以下の内容で開催し、2530名の来場者があった。

天気図講習会（予報研究部）

実験・体験コーナー

- ・ 雪の結晶を観察しよう 物理気象研究部
- ・ エルニーニョの仕組み 海洋研究部
- ・ マグニチュード体験 地震火山研究部
- ・ 雨滴風洞実験装置 環境・応用気象研究部
- ・ 赤外線で温度を測る 地震火山研究部
- ・ 海は二酸化炭素を吸収する 地球化学研究部
- ・ 空気砲で遊ぼう 企画室
- ・ 誕生日の衛星写真 気候研究部
- ・ びっくりお天気上映会 気象衛星・観測システム研究部
- ・ 地震の音を聞いてみよう！ 地震火山研究部
- ・ 一パラシュートをつくろうーとばそう 高層気象台
- ・ 風船はどうなるの？ 高層気象台
- ・ 有害紫外線の測定実験 高層気象台
- ・ オゾンゾンデの実験 高層気象台
- ・ 紫外線をチェックしよう 高層気象台
- ・ 放球体験 高層気象台
- ・ 雲の発生装置 環境・応用気象研究部
- ・ どっちが塩水 海洋研究部

ビデオ上映（気象研究所概要ほか）

観測・研究施設見学

- ・ 回転実験装置 物理気象研究部
- ・ 低温実験施設 物理気象研究部
- ・ 係留気球 高層気象台
- ・ ラジオゾンデ 高層気象台
- ・ 気象測器参考館 気象測器検定試験センター
- ・ 地震体験車 （協力）つくば市消防署

施設見学など

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行なわれる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行なっている。見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。

平成 20 年度は 43 件の見学を受け入れた。

5.2.2. 普及・教育制度との連携

サイエンスキャンプ

サイエンスキャンプは、最先端の研究者による講演や研究現場の見学を通じ、次世代の科学技術の担い手である高校生の「科学技術に関する興味・関心を高め、創造的探求心を育てること」を目的にした、(財)日本科学技術振興財団の事業である。

気象研究所では、平成 9 年度からサイエンスキャンプに協力し、次世代を担う生徒の芽を育んできた。平成 20 年度は、7 月 28 日から 7 月 30 日の 3 日間、全国から 18 名の高校生を受け入れ、講義や実験などを行った。

講義内容

- ・ 天気予報の基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・柳野 健
- ・ 天気予報の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・中村誠臣
- ・ エマグラムを書いてみる・・・・・・・・・・・・・・・・加藤輝之
- ・ 天気予報の実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・大泉三津夫、中村誠臣
加藤輝之、橋本明弘
- ・ 温暖化の講義とガイダンス・・・・・・・・・・・・・・・・松枝秀和
- ・ CO₂測定実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・澤 庸介、笹野大輔
和田 晃、松枝秀和
- ・ 地震の震源を求める・・・・・・・・・・・・・・・・吉田康宏、山崎明、安藤忍
- ・ マグニチュードを求める・・・・・・・・・・・・・・・・吉田康宏、山崎明、安藤忍
- ・ 津波の波源を求める・・・・・・・・・・・・・・・・平田賢治、山崎明、安藤忍
- ・ 地震実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・勝間田明男、弘瀬冬樹
安藤忍

見学内容

- ・ 回転実験装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ 低温実験室・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ スーパーコンピューター・・・・・・・・・・・・企画室
- ・ 高層観測（ゾンデ放球）・・・・・・・・・・・・高層気象台

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が「理科大好きプラン」の一環として行なっている取り組みで、気象研究所では平成 14 年度から協力を行なっている。平成 20 年度は SSH として指定を受けている 8 校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・ 8 月 4 日 岡山県立玉島高等学校
- ・ 8 月 6 日 学校法人静岡理工科大学静岡北高等学校
- ・ 8 月 7 日 山口県立宇部高等学校
- ・ 9 月 12 日 石川県立七尾高等学校
- ・ 9 月 26 日 熊本県立第二高等学校
- ・ 10 月 16 日 石川県立金沢泉丘高等学校
- ・ 10 月 22 日 岐阜県立岐山高等学校
- ・ 11 月 7 日 群馬県立桐生高等学校

5.3. 報道発表

・気象研究所の研究活動の内容を含んだ気象庁の報道発表

平成 20 年 5 月 9 日 次世代台風予報技術の開発を目指して特別観測実験 T-PARC2008 を実施

平成 20 年 6 月 26 日 「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」について（第 9 報）

平成 20 年 7 月 14 日 アルゼンチン気候変動への適応能力強化に関する研修について

平成 20 年 10 月 16 日 台風の特別観測実験 T-PARC2008 について

平成 20 年 11 月 19 日 アジア地域「気候変動への適応にかかる能力強化」研修の実施について

※報道発表資料は気象庁ホームページを通じて公表されている。

・気象研究所の報道発表

平成 20 年 6 月 13 日 成層圏オゾン層の回復が対流圏気候に与える影響

－南極オゾンホールの変化と南半球下層の偏西風強度の変化の相互関係－

((独) 国立環境研究所との共同発表)

概要：CCMVal 研究グループの内のアメリカ、スイス、カナダ及び日本（国立環境研究所、気象研究所）の研究グループによる共同研究によって、南極オゾンホールの動向が南半球対流圏での偏西風の強度に有意な影響を与える可能性のあることを見出した。その成果が *Science* に発表される。

平成 20 年 12 月 1 日 鉄道安全運行のための突風探知システムの開発

～庄内平野の高層ゾンデ観測を公開～

((独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構との共同発表)

概要：(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構の基礎的研究制度の一環として、気象庁気象研究所をプロジェクトリーダーとする研究グループが平成 19 年度から実施している、突風を探知するシステム開発を目指した研究開発において行う、山形県庄内平野における高層ゾンデ観測の気球放球を報道機関向けに公開する。

5.4. 国際的な技術協力

国際連合気候変動枠組条約の非附属書 I 締約国では、第 2 次またはさらに高次の国別報告書の提出に向けた準備を進めているところが多くある。このため、当該国では、気候変動への適応の基盤となる気候変化の将来予測について、的確に行う技術の習得を望んでいる。(独)国際協力機構(以下「JICA」という。)は、気候変動が地球規模の課題であることから、途上国での取り組みは欠かせないと判断し、技術支援として気候変動への適応能力強化に関する研修に取り組み始めた。気象研究所は JICA に協力し、気候変化の将来予測に係る技術支援を行う受け入れ機関として研修を実施した。主なものは以下のとおり。

- ・アルゼンチン気候変動への適応能力強化に関する研修
- ・アジア地域「気候変動への適応にかかる能力強化」研修

また、気象研究所における気象観測研究の知見等を活かした研修受け入れも行っている。主なものは以下のとおり。

- ・日中気象災害協力研究センタープロジェクト「境界層観測」コース (JICA による)

さらに、地震火山分野にあつては、1995 年以来、(独)建築研究所が行う「国際地震工学研修グローバル地震観測コース」において、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献している。

5.5. その他

研究の成果として得られたプログラムを、申請に応じて研究機関、教育機関に提供し、成果の普及に努めた。

- ・地殻変動解析支援プログラム MICAP-G : 日本大学で利用

